

# 宮中取水ダム減水区間における 令和2年度モニタリング調査計画

令和2年1月31日

信濃川中流域水環境改善検討協議会

## 【総括とりまとめを踏まえたモニタリング調査計画の考え方】

- 減水区間の水温は、水温回帰モデルで予測が可能であるため、水温実測は終了し、モデルを用いた評価に代替する。ただし、予測に必要な宮中取水ダム魚道と、モデルによる予測結果を検証するため栄橋において調査は継続する。
- 魚類の生息・生育状況は、下流域を主な生息域とする種の減少傾向がみられたが、冷水性魚類や上流域側を主な生息域とする種の個体数は、安定もしくは増加傾向にあった。これらの傾向は、減水区間が位置する中流域の魚類相として問題ないと考えられる。ただし、令和元年10月に観測史上最大規模の洪水が発生したため、令和2年度は調査を実施する。令和3年度以降の調査の実施は、その後の調査結果を踏まえて判断する。
- サケの遡上数は、流況の改善に加え、稚魚放流の効果等もあり、新潟県のサケ来遊数と連動していることが確認された。ただし、上流の西大滝ダムにおいてサケ稚魚放流が実施されるため、継続して調査する。

以上を踏まえ、令和2年度のモニタリング調査計画は、以下のとおりとする。

### 宮中取水ダム減水区間における令和2年度モニタリング調査計画

項目	調査内容	調査時期	調査地点
河川水温	水温実測	夏季の高水温期 (7月26日～9月5日)	宮中取水ダム魚道, 栄橋
魚類の生息及び 遡上・降下	生息・生育状況調査	春季、夏季、秋季に各1回	十日町橋
	サケ遡上調査	サケの遡上期 (9月11日～11月10日)	宮中取水ダム魚道

注) 河川水温は、水温回帰モデルを用いて、十日町橋, 栄橋, 川井大橋の夏季高水温期 (7/26～9/5) の水温を評価する